



2020年11月9日

各位

会社名 神田通信機株式会社
 代表者名 代表取締役社長 神部雅人
 (JASDAQ・コード番号: 1992)
 問合せ先 執行役員管理本部長 田辺正行
 電話番号 (03) 3252-7731

2021年3月期第2四半期累計期間の 業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2020年5月13日に公表いたしました2021年3月期第2四半期累計期間の業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期第2四半期業績予想と実績との差異 (2020年4月1日～2020年9月30日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	2,796	△95	△62	△90	△37円44銭
実績 (B)	2,744	196	235	158	65円96銭
増減額 (B-A)	△52	291	297	248	
増減率 (%)	△1.8	-	-	-	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	2,589	△12	21	10	4円38銭

(注) 当社は、2019年11月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 業績予想との差異理由

新型コロナウイルスの影響による、材料の確保や建築工事の延期等が不透明でありましたが、業績へのリスクを見込み、業績予測を立て事業を展開してまいりました。

売上高につきましては、主力事業である情報通信事業では、受注残工事が中止にならず予定通り仕上り、ネットワークインフラの設計・提案・構築、自社ブランドパッケージソフトの販売及びハード、ソフトのサポートサービスが計画どおり推移しましたが、映像分野が計画を下回りました。照明制御事業では、照明制御システムの設計・販売・施工を軸としたビジネスが計画を上回って推移しました。また、不動産賃貸事業は計画どおりに推移し、前回予想を52百万円下回る結果となりましたが、概ね順調に推移しました。

利益面につきましては、付加価値の高い保守工事・保守料の売上が予想より多かったことと経費削減及び投資抑制に努めたことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも前回予想を上回りました。

以上